

日本漢方協会通信

2019年12月

第39回 漢方学術大会が開催されました!

～2019年11月10日(日) 於 慶応義塾大学・芝共立キャンパス～

 <p>特別講演 I 岩間 眞知子 先生</p>	 <p>特別講演 II 笛木 司 先生</p>	 <p>分科会発表 1 熊井 啓子 様</p>	 <p>分科会発表 2 安倍 眞知子 様</p>
 <p>分科会発表 3 田中 美穂 様</p>	 <p>分科会発表 4 河合 元宏 様</p>	 <p>分科会発表 5 松下 直美 様</p>	 <p>一般発表 1 細野 美佐子 様</p>
 <p>一般発表 2 中村 さやか 様</p>	 <p>一般発表 3 渡辺 方乃 様</p>	 <p>一般発表 4 海苔 たき子 様</p>	 <p>一般発表 5 今井 淳 様</p>
 <p>一般発表 6 庄司 良文 様</p>	 <p>一般発表 7 三室 洋 様</p>	 <p>一般発表 8 白鳥 誠 様</p>	 <p>一般発表 9 原 裕司 様</p>
 <p>一言治験例発表 1 庄子 昇 様</p>	 <p>一言治験例発表 2 岡崎 仁子 様</p>	 <p>一言治験例発表 3 八木 多佳子 様</p>	 <p>懇親会にて 集合写真</p>

日本漢方協会通信 その2 令和元年12月

湯島聖堂での斯文会の神農祭

斯文会の神農祭は毎年、11月23日の勤労感謝の日に行われています。神農祭は晴れの日がほとんどでしたが、あいにくの雨天になってしまい、神農廟の開帳は無く斯文会館での祭事となりました。祭壇には神農・伏羲・黄帝が描かれた掛け軸が飾られていました。見ることの出来ない宝物をみる事が出来ました。記念講演は名誉生薬ソムリエの小松先生の昭和40年以降の生薬事情と題して、先生の経験をまとめられて話されました。
以下斯文会のホームページより一部修正して掲載いたします

湯島聖堂では、毎年勤労感謝の日
に斯文会の主催、神農奉賛会の協賛のもと、神農祭を行っております。神農は、古代中国の伝説上の帝王である三皇のひとりであり、中国古典籍によると、初めて農具を作り、人民に農耕を教えたといひます。また、人民が病気で苦しんでいるのをみて、医薬をもつくり、農作物と他の物品との交換、交易を教えたともいひます。日本では江戸時代から医薬の始祖として東洋医学者の尊崇を集めてきましたが、交易の神として商業に携わる人々の間で商業神としても各地に祀られています。湯島聖堂の神農像は長らく大和東大寺の学僧奄然が寛和三年（987）に中国より持ち帰ったものと伝えられていましたが、昭和五十九年の斯文会及び矢数道明北里研究所附属東洋医学総合研究所名誉所長の調査により、像の背扉が開かれたところ、徳川三代将軍家光の発願により雑司が谷の薬苑主山下宗琢が製作し、直接の作者は明石清左衛門藤原真信であり、寛永十七年（1640）にこれを薬苑に安置する、との記録が見つかりました。薬苑、宗琢については史実に明らかなるも、作者については依然確証が得られていませんが、神農刻像は家光発願のものということで間違いなさそうです。徳川五代将軍綱吉に

よって創設された湯島聖堂内に新設された神農廟に移された神農像ですが、その後家斉の時代には医学館に遷座し、明治維新を迎えました。維新後新政府の官物として農商務省博物館に陳列されたため、これを憂えた東宮侍医温知社代表浅田宗伯のもとに引き取られたのですが、温知社の解散、関東大震災による神農祀堂の崩壊により、宗伯の高弟木村博昭の手に渡ります。しかし、昭和十七年、木村家を嗣いだ木村長久氏も太平洋戦争で軍医として召集されます。その際、元の廟所である聖堂に戻す事がもっとも所を得たものとして、戦争末期の昭和十八年、150年ぶりに神農像は聖堂に遷座しました。戦後、神農祭は昭和二十八年、斯文会と神農奉賛会の前身である神農史蹟礼賛会の協賛により復活し、現在も聖堂三大打事の一つとして続いております。令和元年度は昭和二十八年を第一回とすると、第六十七回神農祭ということになります。

注 意

12月15日漢方特別講座の会場は
東京薬科大学・千代田サテライト
キャンパスです

飯田橋駅から6分の東京逡信病院の
一角です